



にしじ

退任のご挨拶

副院長 谷木 利勝P2

医療技術局長 楠目 雅彦P3

平成25年度 研修修了式が行われましたP3

特集

高知医療センター 開院10周年企画

～診療現場の「今」と「これから」～

第1回 総合周産期母子医療センターP4~P6

4

■ 地域医療連携病院のご紹介 Vol.74 医療法人 みつる会 高知脳神経外科病院 P 7

■ 高知医療センター・イベント情報 P 8

APRIL 2014 Vol.102



カツオ人間が地上ヘリポートにドクターヘリの見学にきてくれました。

高知医療センターの理念

— 医療の主人公は患者さん —

退任のご挨拶

「Keep in touch with me.」

副院長 谷木 利勝



まず最初に、私が平成26年3月末で高知医療センターを定年退職するに当たり、平成17年3月の当院開院以来、当院職員や関連施設の皆様に支えられ、過ごしてこられたことを、深く感謝申し上げます。

私はこれまで、高知医療センターの副院長として、院内の多くの委員会にかかわってきました。そして、これらの委員会を通じていろいろな意見を直接聞いたことは、私にとって大きな財産になりました。ことに私と反対の意見に対しては、自分の説明不足、見識のなさ、知識不足を反省し、謙虚に耳を傾けて尊重するように心がけました。そのためには事実関係や真偽を検証し、文献を探しての勉強もしました。従って私の副院長としての職能は、職員の皆様方に育てられたようなものです。特に、主に経営面において、病院全体を俯瞰できたことは、大変良かったと思っています。またこれらを糧に、病院の一定の舵取りをしてこられたのではないかと、自負しています。

ただ、残念ながら委員会が多すぎて重複開催され、片方が欠席になることがしばしばありました。一般的に副院長等以上の幹部にとっては3～10年の長期的な将来展望、中堅幹部には中期的視野、現場の職員には直面している問題が重要で、これらの解決や議論のためには「打ち合わせ」が必要です。ここでいう「打ち合わせ」とは、多人数が集まって問題を議論することで、会議・検討会・連絡会・報告会に分類するのが一般的です。「会議」は多人数で問題の解決策の結論を決定する会であり、「検討会」はその場で問題の解決策のアイデアを選択するために複数の人が集まる会（ワーキンググループなど）です。また「連絡会」はその場で問題解決策の結論を出すのではなく、すでに決めた結論を共有するために複数の人が集まる会、「報告会」は決めるのではなく共有することが目的で、共有する対象は問題解決の選択肢（アイデア）、となっています。こう整理してみると、当院で1ヶ月に2回開催されている、最も重要な「企業団運営会議」はどうでしょうか。「会議」を主目的にしてはいますが、検討会・連絡会・報告会も兼ねていて、多重化しています。当院の打ち合わせ会は組織別になっているので、機能別に分類し、整理し直すことが必要ではないでしょうか。また連絡会や報告会については、内容によ

ては院内のインターネットで済ませる工夫も、求められていると思います。また「打ち合わせ」には、そこで用いられる資料の善し悪しが、大変重要です。この資料や議事録作成については、病院事務職員の方々に大変お世話になりました。

一方、当院では救急疾患としての、超高齢者の肺炎などが増えてきています。東京都では「救急車の出動の3分の1を75歳以上の高齢者が占めている」のが現状だということも鑑みても、これからは専門化したチーム医療での高齢者対策が、是非とも必要だと思われます。

また、真夏や真冬の高知医療センター繁忙期には、周辺の病院や施設の方も満杯である、という状態が、毎年のように繰り返されています。これを解消するには、高知県医師会などの協力を得て、厚労省が推奨している「在宅医療」に、当院も関わっていくことが必要でしょう。

手術などにおいては、臓器の3D(立体)印刷での立体構造のシミュレーションやナビゲーションが可能となり、ロボット手術の進歩も相俟って、将来は基本操作さえ出来れば、難しい手術が簡単に出来るようになると思われます。ただこの領域に対しては、かなりの資金の投入が必要でしょう。

以上、今後の将来展望について、私見を述べさせていただきました。高知医療センターは高知県の先導的役割の病院となっていますので、さらに発展されることを願っています。また、医療系や事務職員の中から、MBA(経営学修士)の資格取得を目指す、夢と志を持った人材が出てくることを期待しています。

最後に、私がアメリカのインディアナ大学に留学した折、日本に帰る前に実験腫瘍学講座教室ジョージ・ウェーバー教授から言われた言葉は、「Keep in touch with me. (私と連絡を取り続けましょう)」でした。私は平成26年4月からは、JA高知病院で働く予定になっています。またいろいろご指導を仰ぐこともあるかと思えます。これからも引き続き、どうかよろしくお願いいたします。

長い間、大変お世話になりました。

*Keep in touch with me.
Shikatsu Taniki.*



多く人に支えられ定年退職ゴール

「ありがとうございました」

医療技術局長 楠目 雅彦

この度、昭和53年7月に高知県立中央病院採用から36年、おかげさまで高知医療センターをめめでたく定年退職となりました。この間、中央病院と市民病院統合、医療センター開院の大プロジェクトは、忘れられない貴重な経験となりました。放射線関係の準備段階から、二つの病院の協力体制や新しい業務・環境に不安を感じながらも、多くの方々の支援を受け、技師一丸となって医療センター開院という大きな山を乗り越え、順調にスタートを切ることが出来ました。その後も最先端医療機器の導入と共に、技術力向上を図り高度医療への対応を進める事が出来ており、これからより一層の発展を願っています。また、医療技術局長に就任してからは、「医療の主人公は患者さん」「お互いの技術の尊重」「共同連携」の理念に加え、多くの職種で構成している医療技術局のため、職域を超えた「和」を大切に組織作りを目指して運営してまいりました。まだまだ、力不足ではありましたが、技術局職員の協力の下、他職種への関心、理解と協力体制など少しずつ「和」が取り入れられ円滑な組織作り運営が出来てまいりました。そ

の他、コンプライアンスに伴う重要な職務であった放射線取扱主任者の放射線管理業務では、関係省庁への許可申請・各種届け出には苦慮し細心の注意を払い、立入り検査等の法定検査では、小心者の私としては少しビクツイタ事もありましたが、これとって問題も無く皆様の協力の下、役を終えることが出来たことを誇りに思っています。また、専門外で重要な役職の医療機器安全管理責任者では、医療機器情報コミュニケーター（MDIC）の資格を取り臨みましたが、臨床工学士の方々の協力無くしては、到底何も出来ず、多大な協力の下、何とか職務を全うする事が出来ました。書き尽くせない山あり谷ありの36年間のゴールは、ひとえに、周りの多くの方々の手助け、支えがあったからこそ到達する事ができたと思います。

「今まで長い間、皆様に支えられ、育てられ、本当にありがとうございました。心から感謝を申し上げます。」
今後の高知医療センターのますますの発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

NEWS !

26年3月20日(木)

平成25年度 研修修了式 が行われました



研修医の先生方には、「いつか指導医の立場になった時には、この研修医として過ごした期間に感じたことを思い出し、それを生かしてこの先の未来へ繋げてください」と、激励の言葉が向けられ、修了証書が授与されました。

第1回

高知医療センター 開院 10周年企画 ～診療現場の「今」と「これから」～

開院からの10年を振り返り、各診療科の変化と現状をお伝えします。



産婦人科医・小児科医・小児外科医

第1回 総合周産期母子医療センター

文責：副院長 総合周産期母子医療センター長 吉川 清志

10年目を迎えた 総合周産期母子医療センター

2005年3月、高知医療センター総合周産期母子医療センターは、高知県で唯一の総合周産期母子医療センターとして産声をあげました。

同年1月から県立中央病院未熟児新生児室（NICU3床を含む15床）の入院を徐々に制限し、何度も打ち合わせを行い綿密に準備し、2月26日（土）に入院していた赤ちゃんの移送を行いました。当時はNICU（新生児集中治療室）6床、GCU（新生児治療回復室）15床、MFICU（母体胎児集中治療室）3床、産科病床28床、小児病床32床、産婦人科医9名、小児科医10名（新生児担当1名）、小児外科医2名の陣容でした。

私は、開院当初は増加したNICU3床とGCU3床が空床になるのではと心配していましたが、産科は森岡信之先生（現：聖バルナバ病院）、小児科（新生児）は高橋章仁先生（現：倉敷中央病院）たちの努力でNICU・GCUが満床となり、母体搬送や新生児搬送

を断る事態が生じたため、2007年4月にNICUを9床に増床しました。しかし、満床状態が改善されないため2013年4月からNICUを12床に再度増床しました。

これに先立って、2012年には当院および大学NICUが共に満床となり、5月と6月に各1件の県外母体搬送が行われました。原因は2012年前半の超低出生体重児の急増でした。例年高知県では年間20人程度の超低出生体重児が出生し（表）、当院には概ね6～7割が入院していますが、この年は7月までに15人（8月以降は2人）が入院し、連携して新生児医療を行ってきた大学病院も同様の状態となり、やむなく県外搬送に至りました。これを受け6月20日に緊急に周産期医療に関係する方々が集まり対策を検討した結果、当院では主にハイリスク妊婦の分娩を行い、ローリスク分娩は診療所や他の病院をお願いすることになりました。

総合周産期母子医療センター 9年間の統計値

ローリスク分娩を診療所や他の病院にお願いした結果、下記の表のように分娩数は減少しました。しかし、近い将来高知県内の産婦人科診療所医師の高齢化による分娩施設の減少が予測されるため、高知医療センター産科の8床増床と休床しているGCU3床の稼働を国に申請し、高知県健康対策課の尽力により2014年1月に承認されました。

今後の予定は2014年に工事を行い、2015年4月から増床した11床の運用を開始し、高知県の周産期医療の安定的供給に寄与していきたいと考えています。工事期間中は関係各位にはご迷惑にならないよう努力いたしますが、入院の制限を行わざるを得ない場合にはご理解とご協力をお願いします。

西暦	05	06	07	08	09	10	11	12	13
分娩数 (件)	369	504	543	588	647	679	749	615	646
新生児入院数 (人)	203	207	234	235	212	253	277	246	243
超低出生体重児 (人) (県内)	12 (20)	15 (21)	21 (33)	15 (24)	6 (9)	11 (19)	7 (15)	17 (27)	9 (-)

スタッフ紹介



4階すこやかフロアのシンボルカラーはピンク色です

◀ すこやか4Bフロア (産科病棟) スタッフ

妊産婦さんが安心して妊娠生活を過ごし、出産・育児に取り組むことができるように妊娠中から産後まで継続性のある看護をめざしています。

4B 科長 岩崎 美幸 (写真：前列左より2人目)



▲ すこやか4Aフロア (小児病棟) スタッフ

私たち小児フロアのスタッフは、子供たちの成長・発達を支援しながら、安全で“子供にとって最も良い”看護を目指しています。保育士やボランティアさんも活躍しています。

4A 科長 三浦 由紀子 (写真右：後列最右)



NICU・GCU スタッフ ▶

NICU エリアでは入院してまもない急性期の赤ちゃんが過ごしています。私たち NICU・GCU スタッフ一同は、赤ちゃんがお母さんのおなかの中で守られているような看護を目指しています。

科長 関 正節（前列最右）



質の高い周産期医療を目指して

あつという間の9年間を振り返ってみますと、高知県の周産期医療の強みは産婦人科医・小児科医・行政・メディア等が緊密に連携している点だと思います。高知医療センター総合周産期母子医療センターの強みも、医師・助産師・看護師・コメディカルスタッフ等がお互いの意見を述べながら協力していることであり、人が集まってきてくれていることです。

病院は人で成り立っています。産婦人科には林和俊先生、小児科（新生児）には中田裕生先生が赴任し、中心となって周産期医療を行っていますが、小児科西内律雄先生・小児外科佐々木潔先生を先頭に多くの関係医師（眼科・脳神経外科・心臓血管外科・形成外科・歯科口腔外科など）が支えてくれています。現在は産婦人科医8名（4月から9名）、小児科医10名（そのうち新生児担当3名）、小児外科医2名の体制です。世間

では不足していると言われている看護師・助産師も、学校卒業後あるいはUターン・Iターン等で当院に勤務してくれています。今後もこれらの強みを維持しながら、問題を抱える妊婦や新生児の増加に対して医療ソーシャルワーカーや臨床心理士を配置し、高知県内で完結する質の高い周産期医療を目指します。私達職員はこの役目を全うすべく、これからも精一杯努力し続けなければなりません。加えて、医療関係の方のみならず高知県民が周産期医療について理解を深めて頂き、総ての妊婦と胎児と新生児とその家族への最良の医療にご協力くださることを切に願っています。

どうぞ宜しくお願いします。

2014年3月
副院長
総合周産期母子医療センター長
吉川 清志



総合周産期母子医療センター運営委員会のメンバー



医療法人 みつる会 高知脳神経外科病院

〒780-8065 高知市朝倉戊 767-5
 TEL : 088 (840) 3535
 FAX : 088 (840) 3615
 HP : <http://www.kochi-nsg-hp.or.jp/>

(診療科)

脳神経外科、心臓血管外科、内科・消化器科、
 整形外科、眼科、リハビリテーション科



診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 12:00	●	●	●	●	●	●	△
14:00 ~ 17:00	●	●	●	●	●	△	△

(休診日：土曜日午後、日曜、祝日、年末年始)

医療法人 みつる会 高知脳神経外科病院は、昭和 63 年 8 月、県下で初めて「脳神経外科専門」の救急病院として開設しました。機動性を有した高度医療を行うため、47 床とし、第二次救急医療施設救急告示病院としてスタートしました。高知市、土佐市周辺地域において、脳卒中への対応を中心とした救急医療活動を担っています。また、高知県災害医療救護計画の救護病院に指定されています。

高：高知脳神経外科病院、医：高知医療センター)

医：貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

高：脳血管外科を得意としており、脳動脈瘤手術、バイパス手術、内頸動脈血栓内膜剥離術などの手術をはじめ、術前シミュレーションを行い、安定した手術成績をおさめています。専門外来では、頭痛外来、もの忘れ外来、睡眠外来、セカンドオピニオン外来、禁煙外来などがあります。

医：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。

高：地域医療の向上への貢献や、協力病院などと連携をとりながら、患者さんへのサービス向上へつなげております。また、外部研修への出席、高知県地域医療連携ネットワーク会

や高知県医療ソーシャルワーカー協会への加入・参加により、他医療機関、関係職員との情報交換・連携に努めています。

医：在宅・介護支援についてお聞かせください。

高：当院の場合居宅介護施設が無いいため、脳外科疾患をメインに回復期リハビリテーション病院への転院紹介を多く行っており、介護保険制度の説明・導入、ケアマネージャーとの連絡・情報共有、必要時には高齢者支援センターなどの基幹施設とも連携し、在宅復帰への支援を行っております。

医：今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

高：地域医療への貢献を一番に考えています。疾病を患い、この先どうなるのだろうかという患者さんの不安や様々な問題を、患者さんに寄り添いひとつひとつ解決することが、当院の責務だと感じています。

そのためにも、中心にいる患者さん自身が一番納得して頂ける治療・医療を提供しながら、脳外科の専門病院として、また、地域の皆さまと共に歩む病院として診療に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

医：最後に高知医療センターとの連携についていかがですか？

高：内科や脳神経関連での入院の受け入れ、予約確認、治療を終えてからの逆紹介など、医師から直接問い合わせを行っておりますが、いつも丁寧に対応していただいております。当院では、自宅療養の次に転院が多いという現状ですので、これからも連携病院として、ご協力いただければ幸いです。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。



院内でのミーティング



MSW 森田さん



診察室

月	日	曜	高知医療センター イベント情報 4月～			
4月	20	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2014 (参加費要、事前申込要)			
			内容	「がんと闘うために、がんについてもっとよく知りましょう!」	場所	高新文化教室(RKC 高知放送南館 3階 37号室)
			講師	高知医療センター がんセンター長 森田 荘二郎 氏	時間	10:30～12:00
主催: 高知新聞社、高知医療センター 協賛: アフラック高知支社 主管: 高知新聞企業 お問い合わせ: 高新文化教室 TEL: 088(825)4322 (受講料 9,850円/全12回、1,500円/1回)						
5月	18	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2014 (参加費要、事前申込要)			
			内容	「泌尿器科のがんについて 一前立腺がん、膀胱がん、腎がん」	場所	高新文化教室(RKC 高知放送南館 3階 37号室)
			講師	高知医療センター 泌尿器科 主任医長 新 良治 氏	時間	10:30～12:00
主催: 高知新聞社、高知医療センター 協賛: アフラック高知支社 主管: 高知新聞企業 お問い合わせ: 高新文化教室 TEL: 088(825)4322 (受講料 9,850円/全12回、1,500円/1回)						
5月	21	水	高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要)			
			研修名	「患者の精神状態のアセスメントとケア」	場所	高知医療センター 1F 研修室 1・2
			講師	精神看護専門看護師	時間	17:30～19:00
主催: 高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX: 088(837)6766						
5月	23・24	金・土	第30回 日本救急医学会中国地方会 (参加費要、事前申込要)			
			内容	23日 救急隊教育セミナー テーマ「今、南海トラフ大地震を中国四国全体で考える」 「地方が抱える救急医療の問題を皆で語ろう」	会長	高知医療センター救命救急センター長 喜多村 泰輔 氏
			24日 基調講演・シンポジウム・ポスターセッション等	場所	高知市文化プラザかるぽーと 大ホール・小ホール	時間
お問い合わせ: 高知医療センター 事務局・経営企画課 吉森 対象 医療関係者						
5月	31	土	第33回 地域医療連携研修会 (参加費無料・事前申込不要) ※実技研修に参加希望の方は事前申し込みが必要で			
			内容	「看護師が行う中心静脈リザーバーの管理」	講師	高知医療センター がんセンター長 森田 荘二郎 氏
			対象	講演 医療従事者・一般 / 実技研修 医師・看護師	講師	高知医療センター がん看護専門看護師 池田 久乃 氏
			時間	講演 13:30～15:30 / 実技研修 15:40～17:00	場所	高知医療センター 2F ころしおホール
お問い合わせ: 高知医療センター・地域医療連携室						
6月	15	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2014 (参加費要、事前申込)			
			内容	「抗がん剤の副作用と上手につき合う方法」	場所	高新文化教室(RKC 高知放送南館 3階 37号室)
			講師	高知医療センター 薬剤局 臨床薬剤部長 宮本 典文 氏	時間	10:30～12:00
主催: 高知新聞社、高知医療センター 協賛: アフラック高知支社 主管: 高知新聞企業 お問い合わせ: 高新文化教室 TEL: 088(825)4322 (受講料 9,850円/全12回、1,500円/1回)						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

高知城の桜が開花、というニュースを聞きながら編集を進めた4月号をお届けします。表紙は3月6日に本院を訪れてくれた「カツオ人間」と本院職員のツーショットとしました。結構、よく“はまった”組み合わせと感ぜますが、皆様はいかがでしょう？

今月号には、昨年度末をもって退職された谷木利勝副院長と楠目雅彦医療技術局長、それぞれの退職に当たってのご挨拶とともに、開院10年目を迎えた医療センターの現状を改めてお知らせする高知医療センター開院10周年企画「診療現場の《今》と《これから》」の第1弾を掲載しました。今後、順次、各現場の現状と近未来を、それぞれの責任者に綴ってもらう予定です。どうかご期待ください。(深田 順一)



平成26年4月1日発行
にじ 4月号(第102号)
毎月発行
編集者: 深田 順一
発行者: 武田 明雄
印刷: 株式会社高陽堂印刷
発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL: 088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp